



# なきごえ



1995

9





(撮影：大野 尊信)

- 2 — New Face ニホンジカの赤ちゃん誕生(大野 尊信)
- 3 — 動物と私 犬猿の仲(マイケル・A・ハフマン)  
カパーウォッチングコノハガエル(長瀬 健二郎)
- 4 — 動物園の利用法  
動物園で“生きている化石”を学ぶ(堀田 進)
- 6 — 第7回全国両生爬虫類会議開催される(高橋 雅之)
- 8 — グラフZOO 第21回サマースクール(土谷 正道)
- 10 — 動物なんでも相談室(長瀬 健二郎)
- 11 — ZOO DIARY

### カパーウォッチング

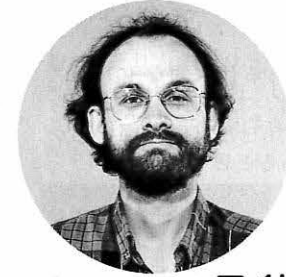
コノハガエル  
カエル目 スキアシガエル科  
*Megophrys monticola*

目の上の突起がとても特徴的です。緑の中では目立つでしょうが、いつも暮らしている林床の枯葉の中では文字通り「木の葉隠れ」となります。

(撮影：長瀬 健二郎)

## |||||| 動物と私 |||||

### 犬猿の仲



マイケル・A・ハフマン さん

(京都大学動物学教室研修員・理学博士)

**私**は1958年(昭和33年)の犬年にコロラド州のデンバーで生まれそこで育ちました。本来、犬と猿は仲が悪いと言われますが、そのことを誰もが私に言い忘れていたようです。

3歳のころ母は私によく「キューリアス・ジョージ」というチンパンジーが主人公の絵本を読んでくれました。そのころ私は「大きくなったらアフリカへ行ってチンパンジーと一緒に住むんだ」と言っていたそうです。その24年後、1985年、母に言ったとおりチンパンジーの住んでいる森に出かけたのです。それは、京都大学動物学教室の大学院生として、タンザニアのマハレ山塊国立公園にある野生チンパンジーの調査をするためでした。この調査も今年でちょうど10年目になり、この秋からの6回目のマハレ調査に向けて、出発の準備をしているところです。わずか3歳のときの絵本が「アフリカに住むんだ」と言わせてくれましたが、幼いころの小さな夢をこれだけ大きく発展させることが出来たことをとても不思議に思います。

**幼**いころといえば、デンバーはそれなりの規模をそなえた都会でしたが、生活の周辺には自然のたたずまいが豊かに感じられる町でした。家では父や母も動物をこよなく愛していましたし、私が学校に上がる前にはイヌ、ネコ、ヘビ、ウサギなど身のまわりの動物たちとも家族同様につきあっていました。愛すること、別れの悲しみなど、人間としての感情の大きな部分を、こういう動物たちとのつきあいを通じて学ぶことができたような気がします。小学校2年生のとき、先生が池の水を顕微鏡でみせてくれたことがあります。そのとき顕微鏡のレンズの向こう側にも生物の世界が展開していることを知り、生涯忘れられないほ

### ニホンジカの赤ちゃん誕生

今年もニホンジカの赤ちゃんが続々と誕生しています。母親からいっぱいミルクをもらって現在までに9頭がすくすくと育っています。



どの感動を覚えたものです。

動物好きの私が3歳から霊長類学者の道を歩き始めたというのは言い過ぎかもしれませんが、中学校に進学してからは特にサルに熱中し、愛称モンキーマイクとも呼ばれるほどでした。高校に入ってから、仲間は車を買うことばかりを考えましたが、私はアフリカ行きの航空券だけが欲しかったのです。高校の3年間はボランティアとしてデンバー動物園のサル島、新生児動物の保護センターや病院で働きました。もちろん、そのチンパンジーたちとは仲良しになりました。

**ア**フリカに一歩近づいたのは高校卒業後の夏休みでした。貯めたお金でカリブ海の小さな島へ行き、野生化したサバンナモンキーを1か月ばかり観察しました。300年ほど前、少数のサバンナモンキーがペットとして海の向こうの西アフリカからこの島に連れて来られ、現在の島の人口を上回るほどに増えています。

その秋、入学が決まっていた大学の方から日本への短期留学をすすめられました。アフリカへ行くはずの私が、なぜ反対方向にある日本へ行くのかは自分にも説明が出来ませんでしたが、たった一瞬で行くことを決心しました。そのときは二ホンザルのことさえ知らなかったのですが、何か日本へ強く私を呼んでいるような気がしました。

1978年、日本に来てからはまず日本語や日本の生活に熱中しましたが、そのうち、恩師である京都大学名誉教授の伊谷純一郎先生に出会い、京都の嵐山で二ホンザル研究の機会を与えていただきました。二ホンザルの研究に身を入れるため、14か月間、岩田山に入り込み、山上の小屋で自炊しながら、浅葉園長さんがサルのために餌として撒くタマネギ、キャベツ、ニンジン、ナスなどの野菜を、我が愛しいサルたちと奪い合うというようなこともありました。

二ホンザルの調査が終わった1980年、アメリカに帰国しました。大学卒業後、1983年、文部省の国費留学生として再び京大の大学院に入り、二ホンザルの山や3歳からの夢だったチンパンジーの森へと一筋に研究を続けてきました。考えてみれば、スタート時点のふるさとデンバーのころから現在までまっすぐに歩き、ときには走って来たような気がします。その歩みは、いつも動物と共であったような気がします。私にとって自然や動物は第2の両親というほどにかけがえのない存在なのです。

今でさえ姪たちには「サル男のマイクおじさん」と呼ばれています。彼女たちの成長を見守り、ときにはサルやアフリカの絵本を送り、将来一緒にチンパンジーの森へ行く日が来ることを楽しみにしています。

# 動物園の利用法

## 動物園で “生きている化石”を学ぶ

堀田 進 (東京経済大学教授)

都会にもある代表的なオアシスといえば、まず動物園があげられます。誰でも一度は動物園に出かけたことがあると思います。

動物園には、世界各地の動物たちが飼育されていて、それらの動物を見ていくと、「こんな動物も生きているのか」とびっくりすることもあり、また、図鑑だけでは知ることができない「動物のすがた」を知ることでもあります。

私は、大学で地学を担当していますが、その実習として動物園見学をおこなっています。はじめは、学生が動物園にいくというと、教室に笑いがありました。多分、動物園は幼稚園の遠足の場合、デート?の場合くらいにしか考えていなかったのだと思います。しかし、長い地球の歴史の過程で、生物も変化してきたことを具体的な例を示しながら話し、その視点から、動物を見る実習であることを知ると、学生もまじめに参加します。そして、動物の見方をはじめて知ったと言います。



実習のはじめは動物園見学から

動物園を地学・生物の実習の場として利用するとき、動物の配置も各動物園ごとに異なっていますので、それを考えに入れることも大切です。その動物の配置を大別しますと、まず、①動物の現在の地理的分布による配置です。そのばあい、類縁の深い動物がはなれて展示されます。そして、②動物の種類別に配置してあるばあいです。動物の分類や類縁関係(どの動物とどの動物が近縁か)に注目した見学ができます。さらに、③動物園内の場所により、オーストラリア地区、アフリカ地区など、ある地域に生息する動物を集めて展示し、その点は地理的分布、別の場所では、サル類だけ、ネコ類だけのプロムナードとして展示してあるばあいです。この配置の方法は、学習するテーマをはっきりさせて見

学ができます。

動物園での動物観察では、まず、その動物がどんな種類に属し、現在ではどの地域に生きているかを知ることです。おおくの動物園で、動物の檻(おり)の前に、その動物名や、どの種類に属するか、さらに、生息地(世界地図で示してある)まで、ネームプレートにして示してくれていますので、動物を見る出発点は、動物園で与えてくれているといえます。

私の大学生を対象にした見学では、その動物がほかのどんな動物と類縁しているか(分類上の位置づけ)を「動物園見学ハンドブック」をテキストにして、なるべく多くの動物を観察してもらいます。動物図鑑を持参する学生もいますので、そのばあい、哺乳類図鑑を薦めています。動物を前にして、設問しながらガイドをすることもありますが、そのばあい、動物の種類別の配置の動物園が利用しやすいように思います。

動物園見学で、園内のネームプレートを書き写すことに夢中になり、動物を見る時間が少なくなってしまっている例もみられますが、ただ分類と地理的分布だけを知ればよいというのでは、学校で学んだことを知識としてもつだけのことと同じになってしまいます。大切なことは、教科書や図鑑に書いてないことであっても、実際に自分の目で動物を観察しながら(ここが大切)、自分の興味を引く動物を調べたり、疑問に思う点がでてきたら、その疑問を自分で調べていくようにすることです。

私の見学実習では、見学会当日の課題と、見学後に調べる総括的な課題を提起し、あとでレポートとして提出してもらうことにしています。動物を観察する目的で動物園にでかけるのは初めてだ、という学生がほとんどですから、動物園だからといって、遊びの感覚で見学会に参加したら大変苦労することになります。



真剣な表情で動物を観察

では、どんな視点で観察していくかについて、若干の具体例を述べてみます。

体の表面が毛でおおわれ、生まれたての子供は母親の乳で育つ哺乳動物についてみれば、その出現は中生代(今から2億年前ごろ)の初期にさかのぼります。現在のおおくの哺乳動物のように、子供が親と同じかたちで産まれるのは、中生代後

期になってからで、中生代に生きた原始的な哺乳動物は、卵を産み、母親の皮膚からでる乳で育つカモノハシやハリモグラ、未熟児を産み、母親の体表のおなかの部分にある育児嚢(いくじのう)で育てるカンガルー・コアラ・ウォンバット・タスマニアデビルなど“有袋類(ゆうたいるい)”などです。現在、有袋類のオポッサム類が南北アメリカに生息するのを除けば、それら原始的な哺乳動物はオーストラリアに生息しています。しかし、中生代以降の過去の地質時代には、たとえば南アメリカのホルヒエナのような大型の肉食有袋類が生きていたように、それらの中生代型の哺乳動物も、長い地質時代をとおして移り変わってきたのです。そのことを“系統発生(けいとうはっせい)”とか“進化”といいます。

以上は一例にしかすぎませんが、どんな生物にも、また、生物の種類についても、“進化”の歴史があり、現在の生物は、進化の結果であり、未来の地球を考えれば、進化の1ページをみていることにほかならない、といえます。

こうした視点で動物を見ていくと、大むかし(過去の地質時代)に栄えていた動物が、現在では、その種類数や個体数が少なくなって、したがって地理的にみても分布が狭まってしまったものが、ほそぼそと生きていることに気づきます。そのような動物は、“生きている化石”とか、“レリック(遺存種、いぞんしゅ)”などとよばれます。動物園で飼育されている動物には、“生きている化石”がたくさん含まれています。また、“生きている化石”は、哺乳類だけでなく、あらゆる生物の種類を見つけることができます。天王寺動物園に飼育されている“キーウィ”は、ニュージーランドに生息する“飛べない鳥”で、第一級のレリックです。

そのような“生きている化石”のおおくは、過去に繁栄した歴史をもち、一般に、繁栄した時代には、個体数がおおく、分布も広がったことが知られます。

“生きている化石”は、少なくとも体のどこかに原始的な形や性質を残しているのですが、なかには、大むかしからほとんど姿を変えずに、現在まで生き続けている種類もいます。哺乳動物では、単孔類のカモノハシ・ハリモグラ、南アメリカに現存する貧齒類のナマケモノ、オオアクリイ、アルマジロ、奇蹄類で原始キリンのオカピ、熱帯アジアに生きる有鱗類のセンザンコウ、アフリカに生きる管歯類のツチブタ、などは、それらの例といえ

ます。それらのレリックを、一つの動物園で見ることができませんが、日本中の動物園にでかければ、すべてではありませんが、見つけることができます。



園内の野外授業風景

“生きている化石”は、長生きしている種類といえますが、将来ずっと生き続けるとはいえません。むしろ、環境変化のはげしい現在では、急速に絶滅に向かっているとさえいえます。日本でも、美しいトキが佐渡で1羽、絶滅直前を生きているし、一方では、すでに絶滅したとみられているニホンカワソコが、四国でまだ生きているという明るいニュースもあります。

中国のシフゾウのように、野生では絶滅してしまった動物が、動物園で飼育され、繁殖している例もみられます。野生では、環境の変化(主な原因は人間による環境破壊)についていけない動物たちが、次第に個体数を減らしています。現在の動物園の役割のひとつに、絶滅しつつある動物の保護があげられています。飼育者ではなくとも、何度も動物園に出かけ、動物を観察していけば、そういった問題を考えるチャンスにもなると思います。

最近、私の住むすぐ近くの府中市にある小さな水田に、初夏になると、体長数センチの“カブトエビ”とよばれるめずらしい節足動物がいるというので、それを見てきました。なぜその水田にだけ生息しているか、不思議です。さっそく、分類を調べてみますと、原始的な節足動物でした。動物園に慣れ親しむと、身近な自然の生物にも興味がわいてくるものです。

今回のテーマは、“動物園の利用”ですが、理科教育のなかで、動物園をいかに活用していくかは、重要な問題であると思います。それに関連して、オーストラリアの動物園では、学年別の課題が、動物園に用意されていて、それを自由にコピーして利用するという方法もあります。理科教育のなかで、動物園における見学や実習がどのような形で組み込まれるかを真剣に考えていく必要があると思います。

(ほった すすむ)



# 当園で第7回全国両生爬虫類会議開催

平成7年6月14、15の両日、天王寺動物園で、全国両生爬虫類会議が開催されました。

この会議は、その名のおり両生類および爬虫類に興味を持つ日本全国の動物園・水族館等の飼育担当者が毎年1回、一堂に会して研究を発表し情報を交換する場であり、それによって、飼育や繁殖・展示の技術を向上させることを目的としています。平成元年6月17日東京の上野動物園で第1回が開催されたのを皮切りに今年で7回目となりました。今回は、青森県から高知県まで、27の園館から53名の参加があり、研究発表も15題と、これまでで最大規模の会議となりました。

おりから、当園ではこの3月に新爬虫類生態館「アイファー」がオープンしたばかりであり、全国から両生爬虫類という共通の話題をもつ人々が集まり、意義深い会議となりました。



ピバ

この稿では、いくつか、興味ある研究発表について皆さんにご紹介することにします。

鳥羽水族館からは、ピバとアカメアマガエルという2種類のカエルの繁殖について研究発表がありました。ピバは南米産のカエルで、コモリガエル(和名)と呼ばれることもあるようにメスが背中に卵を持つ習性で知られています。メスの背中の皮膚は産卵期になるとスポンジの様に厚くなり、産卵された卵はオスが手助けしてその背中に1個ずつ埋め込んで行きます。メスはその卵が孵化するまで背中で保育するのです。鳥羽水族館では、メスの背中から赤ちゃんカエルが孵化して出てくる様子をテレビカメラに収め、その様子をビデオで紹介しました。生まれたてのピバの赤ちゃんは、他のカエルと違いオタマジャクシではなくて、

ごく短い尾が残っているものの、すでにカエルの形をしています。ピバは、扁平な形をした完全に水棲のカエルで、これら産卵から孵化までの一連の行動は全て水中で観察されました。



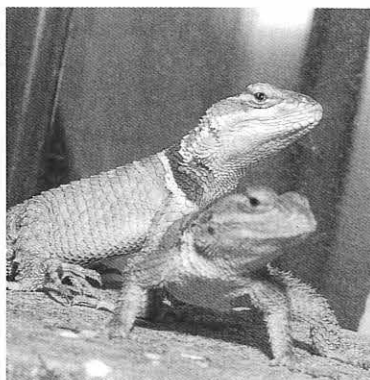
アカメアマガエル

もう一方のアカメアマガエルは中米を原産地とし、ピバとは反対に樹上棲のカエルで、その名のおり目が赤く、瞳が縦長になっているのが特徴です。このカエルの卵は、鳥羽水族館の飼育室ではその中に入れられていたポトスの葉の裏と表に産卵していたということです。神経質なカエルのため、食が細く飼育の難しい種で、オタマジャクシの頃は小松菜などを柔らかく茹でたものを、幼カエルに変態してからは小さなコオロギやショウジョウバエで飼育したようです。鳥羽水族館では1991年5月18日からアカメアマガエルを飼育していますが、産卵が見られたのは1994年9月18日の今回の発表事例が最初だと言うことでした。

爬虫類についても幾つか報告がありました。種で言いますと、アオダイショウ、アカダイショウ、コロンビアレインボーボア、キイロアナコンダ、バシリスク、ヒョウモントカゲモドキ、グリーンイグアナ、アオハリトカゲ、ムツアシガメ、アカウミガメ等。

これらの中には、産卵は見られたが、無精卵であったり、あるいは、孵化率が極端に低いものがありました。飼育下で繁殖させることの難しさ、また、繁殖させることには成功しても幼体を育成することの難しさを改めて、感じました。

その中では、アオハリトカゲについては、繁殖がうまく行った事例で、天王寺動物園が報告しました。このイグアナ科のトカゲは北米南部から南

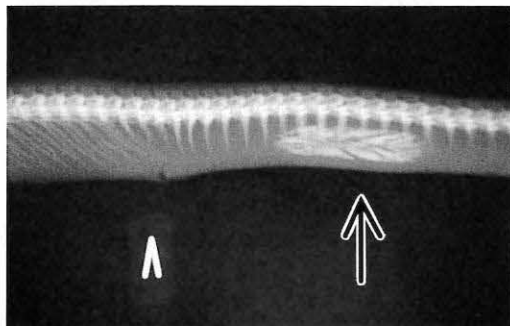


アオハリトカゲ

子を産みます。天王寺動物園のアオハリトカゲは3月23日に体長15~20cmの個体10頭が来園し、同居飼育していましたが、5月4日に12頭の赤ちゃんが産れているのが確認され、その後さらに、同11日に6頭、14日に8頭の産卵が確認されました。これらの赤ちゃんトカゲは成体に食べられることを避けるため、別の飼育ケースに移し、コオロギの幼虫を餌に順調に成長しています。研究発表では、成体の飼育ケースの構造やレイアウト、装置、飼育方法、また、幼体の飼育についても詳しく報告されました。

もう一つ、繁殖に関する話題です。名古屋港水族館からの報告は屋内人工産卵場におけるウミガメ類の産卵について報告がありました。

ウミガメ類の人工環境下における繁殖については、屋外の人工池等で世界的に多くの事例がありますが、完全な屋内の人工施設では例がありません。名古屋港水族館では、1992年4月10日の開館以来、ウミガメ類の完全な屋内人工環境下での繁殖を計画してきましたが、今年1995年4月27日に飼育プールから産卵場(砂場)への上陸、産卵がはじめて観察されました。この発表では産卵の状況の他、人工海浜の構造、水温や照明方法の環境について、また、このような人工環境下でのウミガメ類の生態について報告がありました。



レントゲン撮影で雌雄鑑別(矢印)

次にちょっと、変わったところで、レントゲン撮影によるヘビの雌雄鑑別についてと題して、天王寺動物園が発表しました。ヘビやトカゲの雌雄鑑別はごく一部の種を除き外観からは非常に難しいものです。一般に広く行われている方法はセックスプローブという細い金属製の探子を、総排泄口に挿入し、深く入ればオス、途中で止ればメスという判定をします。これは、オスの生殖器であるヘミペニスを受容する交接突起囊という袋があるためです。この方法は、ヘビの体を傷つける場合もあり、ある程度の熟練を要します。ところで、天王寺動物園ではアオダイショウ、アカダイショウ、シマヘビ、クリイロミズヘビの4種のヘビでレントゲン撮影により、このヘミペニスの存在を確認することができました。レントゲン撮影による方法は、捕獲によるストレスを除けばヘビに与える影響も少ないものと考えられます。

まだまだ、話題は尽きませんが、この他にも両生類・爬虫類に関する飼育経過等の報告がありました。最後に東京の上野動物園が行っている普及活動の報告についてふれたいと思います。

一般に、爬虫類は先入観や誤解から悪いイメージを持たれており、爬虫類を毛嫌いな人も多いようです。爬虫類について正しい知識を持ってもらえるよう上野動物園では入園者にヘビやトカゲに触らせる「爬虫類ふれあいコーナー」を実施しており、触ることができた子供にはその記念写真を付けたタッチ証明書を発行し、触ることができたという自信を持たせる工夫をしています。また、こうした活動は動物園のボランティア(一般人)の協力の下で行われています。

さて、両生類、爬虫類と言うとどちらかと言えば、鳥類や哺乳類に較べて、無表情で、得体の知れないという良くないイメージを持っている人が多いのではないのでしょうか。しかし、飼育している立場からみれば、人より遙か昔から、それぞれの環境に適応し、営々と生きてきた命の存在を感じます。そして、意外に思われるかもしれませんが、ナイーブな動物たちです。2日間にわたる会議では、こうした、両生類・爬虫類のもつ特性について再認識する場でもあったようです。皆さんも、爬虫類や両生類について、すこしでも興味を持たれましたら、私たちのアイファーにお出かけください。その生態展示にきっと何かを感じられることと思います。

(飼育課：高橋雅之)



夏休み恒例のサマースクールが開催されました。  
 参加した小学校4年、5年、6年生のみんなは  
 動物の説明を聞いたり、  
 飼育実習など頑張って勉強しました。

暑い中

撮影：土谷正道

# グラフZOO

## 第21回サマースクール

**ま**ず、レクチャールームで  
 日程と注意を聞く。



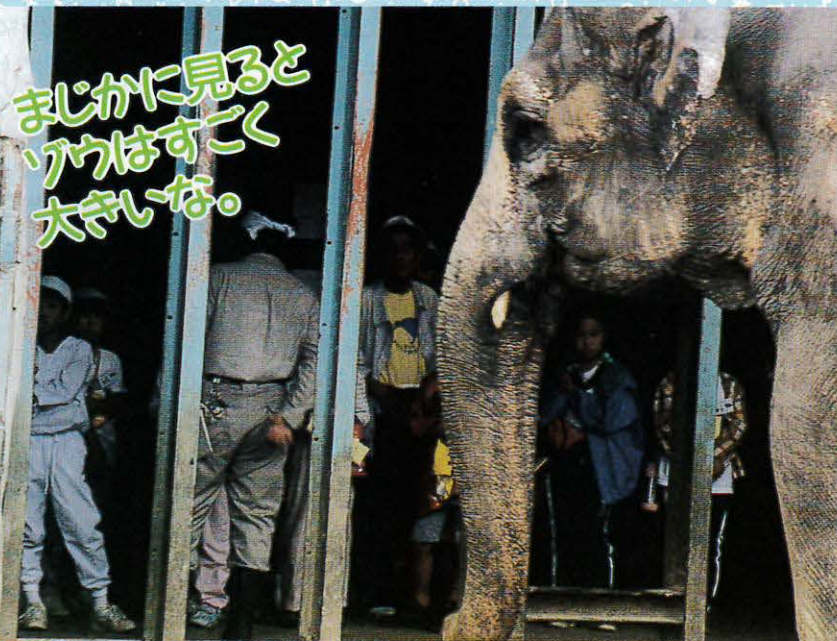
バードケージで卵の検査。



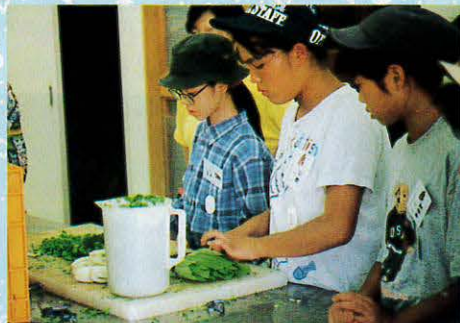
光を当てて卵の中の様子を観察。

寝室からゾウを観察

まじかに見ると  
 アウはすごく  
 大きいな。



**調**理場でライオンの餌作り。  
 包丁で肉を切り分けます。



**キ**ジのヒナの餌作り。  
 菜っ葉を細かく切ります。

首も舌もすごく  
 長い。

キリンに餌やり



爬虫類館にて



へびも近くで見るとかわいいな。



# 動物 なんでも 相談室

この間、動物園に行った時にカバを見たら、ずっとプールの中にいました。カバはどんな時でもずっと水の中にいるのですか。  
(芦屋市・今泉 瞳)

カバはとても水の中の生活に適応した動物です。実は、大きな雄ですと、その体重は2トン近くもあるのですが、これも水の浮力に助けられているからです。ですが、ずっと水の中というわけではありません。カバのエサは陸上に生えている草ですから、野生のカバはエサを食べる時は必ず陸上にあがらなければなりません。瞳ちゃんが天王寺動物園でカバを見た時は、たまたま水の中にいたかも知れませんが、動物園のカバもエサを食べる時は陸上にあがりますし、冬にひなたぼっこをする時にも陸上にあがりますヨ。さらに夜は陸上の寝室で寝ます。

それに、とても不思議なのは出産です。カバの出産は陸上で行われたり、水中で行われたりします。特に水中で行われる場合は子供は逆子で生まれます。つまり、足から生まれるのです。これは子供が水に溺れないようにするためだと思われそうですが、子供が頭から生まれるのか、それとも逆子で生まれるのか、母親はどうやって知るのでしょ



(飼育課：長瀬健二郎)

先日、天王寺動物園の夜行性動物舎でキーウィとダチョウの卵の標本を見てびっくりしました。大きな卵について教えてください。

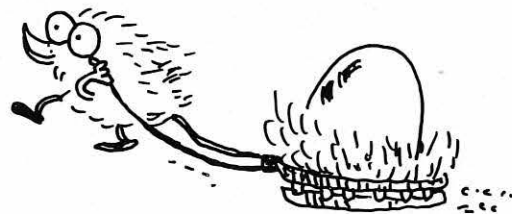
(神戸市・山上 敦)

敦くんが驚いたのも無理はありませんネ。キーウィは体重が2kg、つまりニワトリ位しかないのですが、ニワトリの卵の重さが60g位なのに比べ、キーウィの卵はなんと500g位もあります。ヒトにたとえると体重50kgのお母さんが体重12.5kgの赤ちゃんを産んだこととなります。雌は産卵の直前になるとお腹を地面に引きずる位だそうですから大変です。



さて、最大の卵はやはりダチョウです。親の体は100kgもありますから、産まれる卵も1.5kg、赤ちゃんの頭程もあります。しかし、これはあくまで現在生きている鳥の中での最大のものです。かつてアフリカのマダガスカル島にはエピオルニスという鳥がいました。これも飛べない鳥ですが推定体重は500kg、ダチョウの5羽分もありました。このエピオルニスの卵が今も残っていて、現地の人は水を入れて水筒の替わりに使っているそうです。その容量、実に9ℓ。ダチョウのあの大きな卵の6倍。これ以上の卵は現在のところ見つかっていません。

(飼育課：長瀬健二郎)



- 7/1. ササゴイを1羽保護しました。
- 7/2. カリフォルニアアシカが1頭生まれました。
- 7/3. オランウータンが膀胱炎を起こしたので投薬を始めました。

### 7月4日

レッサーパンダの屋内展示を始めました。

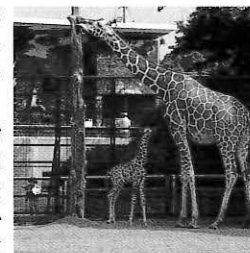


レッサーパンダは中国南部の涼しい高地に生息しており、夏の暑さ対策として毎年行っているものです。

- 7/6. カルガモとツバメを各1羽保護しました。
- 7/8. アミメキリンが1頭生まれました。性別はオスで、名前は担当飼育係員が“アンディ”と命名しました。
- 7/9. アカカンガルーが足を怪我したので治療を始めました。
- 7/11. 爬虫類生態館“アイファー”でアオハリトカゲの展示を始めました。
- 7/15. ムクドリとスズメのヒナを各1羽、コアジサシのヒナ2羽を保護しました。
- 7/17. 5月22日に生まれたベンガルトラの赤ちゃんにワクチン接種を行いました。同時に性別鑑定を行ったところ、メスでした。
- 7/18. 5月と6月に保護したハシブトガラスが元気になったので、放鳥しました。

### 7月19日

7月8日に生まれたアミメキリンの赤ちゃん“アンディ”の一般公開を始めました。7月17日に練習をしていたせいか大変落ち着いていました。当面、母親“ハルミ”とともに2頭を同居展示し、徐々に他の仲間と同居させる予定です。



- 7/20. アカコンゴウインコが1羽ふ化しました。昨年に引続いて、当園では2度目の繁殖です。

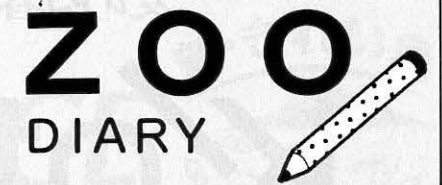
### 7月21日

第21回サマースクールを開催しました。これは動物の観察や飼育係の仕事体験、動物に対する知識と愛護意識を高めることを目的として、小学生4、5、6年生を対象に毎年行っているものです。



爬虫類生態館“アイファー”でアカダイ

## 今月もおもしろ情報満載



- ショウが2頭ふ化しました。
- 7/23. カイウサギが5頭生まれました。
- 7/24. 4月26日に生まれたマレージャコウネコの赤ちゃん2頭の性別鑑定を行った結果オスとメスでした。

### 7月25日

5月22日に生まれたベンガルトラの赤ちゃんの一般公開を始めました。まだヨチヨチ歩きで、母親は四六時中周囲に目をひかせています。ソデグロツルのオスがドイツのバルスローデ鳥類園から贈られてきました。



- 7/27. アブラコウモリを2頭保護しました。まだ赤ちゃんだったので、人工哺育を始めました。

### 7月29日

サル舎でオスのドリルが1頭生まれました。母親の抱き方が悪く、赤ちゃんが危険な状態だったので、人工哺育を始めました。



### お知らせ

- 天王寺動物園開園80周年記念イベント「天王寺動物園80年の歩み」マルチメディアスライド  
期間：9月9日(土)～12月28日(休)  
場所：天王寺公園映像館  
「記念動物映画まつり」  
日時：9月10日(日) 子熊物語  
9月15日(祝) ベートーベン  
午前10時～、午後1時～、午後3時～
- 「こども動物フェスティバル」  
日時：9月24日(日)・10月8日(日)  
午前12時～、午後2時～
- 動物園のおじさんのお話「ピンゴガイド」  
日時：9月17日(日) 午後1時から  
場所：サル・ヒビ舎

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間とは？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>  
B5変型判・オールカラー・各定価680円

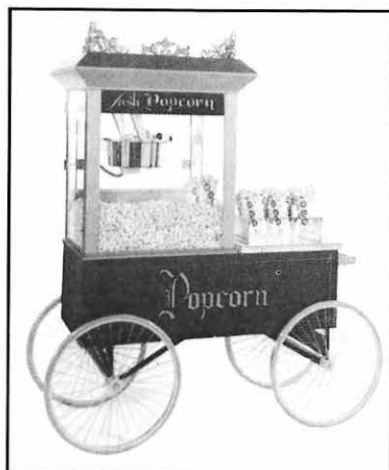
### むし くらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきもの くらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



## マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06) 865-0165

## 新・きれいな色 FUJICOLOR SUPER G ACE 400



### カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉  
会費/年1,500円(切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

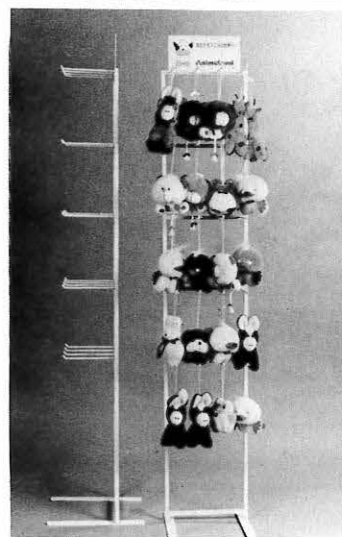


オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

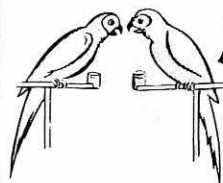


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

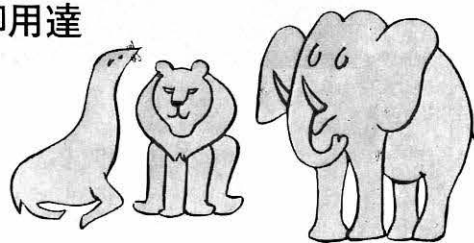
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06) 704-8580  
FAX: (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

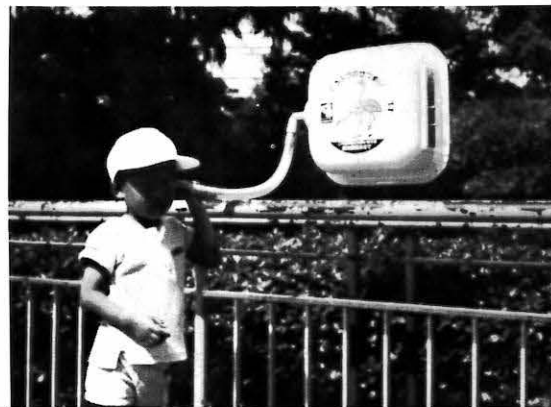


## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話 (078) 221-8195(代)

## たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

動物園内での  
お食事、  
ご休憩は



動物園内.....

## 中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110



## LOTTE



サクッとスリムなプレッツェルを、  
こんがり焼き上げたあとに  
チョコをたっぷり入れました。  
「トッポ」のおいしさの人気は、  
ここがポイントです。





雪印  
つぶよみ  
フルーツ  
ヨーグルト



●ライチミックス

●ストロベリー

●アップル

●ピーチ

●フルーツミックス

おいしさは、産地のよさです。

台湾のライチ、フィリピンのナタ・デ・ココとパイナップル——●ライチミックス  
 国産の女峰、オレゴンのトーテム、中南米のチャンドラー、季節の旬を追って——●ストロベリー  
 日本の富士、中国・韓国の国光。それぞれおいしい季節の——●アップル  
 桃といえば中国です。そして韓国。旬に一括収穫した白桃で——●ピーチ  
 アプリコット、メロン、アップル、パイナップル、ミカン。果物狂の——●フルーツミックス

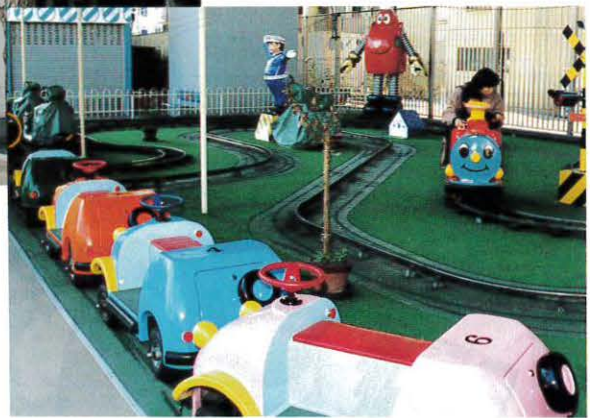
お待たせ  
新発売

希望小売価格・税抜 **各100円**



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)



一日  
愉快地  
たのしめる

なきごえ

1995年9月10日発行(毎月10日発行)第31巻 第9号(通巻361号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 榎葉東輝

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 00930-2-37823

編集委員

樽本 勲/馬詰好文/増野悦敏/中川哲男/吉本昌俊/長谷川敏昭/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭/森本委利/高橋雅之/中上正幸/堀内智生/小林崇宏/竹田正人/大野尊信/野口秀高/早川 篤/土谷正道/村上勇一/仁田原洋